

## 序文

ジョン・メイナード・ケインズは二十世紀における知的巨人であった。ケインズは、現在マクロ経済学として知られている経済学の新分野を創った。また、第二次大戦後のヨーロッパや世界の再建に大きな役割を果たした。この短いケインズ経済学の入門書を書いたのは、ケインズの貢献があまりにもしばしば無視されるからだ。さらに、ケインズの貢献は単一経済の理解に矮小化され、世界経済の理解への貢献は無視されている。こうした洞察は、世界的なマクロ経済の危機の時代には重要である。

本書は、ケインズ経済学を手短かに概説している。読者は、現在の政策論争にケインズ経済学の道具を使うことができるようになるだろう。解説はケインズの生涯の説明を通して行う。それによって、ケインズの新機軸を歴史上の時間や場所に位置づけられるからだ。また、ケインズにとって社会通念から逃れることがいかに難しかったかを説明するために、ケインズより前の時代の経済思想を説明する。本書は、ケインズの閉鎖経済に関する分析から始めて、それを国際経済へ拡張する。本書では、単純なグラフと簡単なモデルしか使わない。それらは、二十世紀や二十一世紀の初頭に関する簡単な説明から考案

されたものだ。

ケインズ経済学は、大恐慌や第二次大戦後の二、三十年間に採用された政策と結び付けられるようになった。第二次大戦後の二、三十年間は、今では経済成長の黄金時代として知られている。その異例な時代は一九七〇年代に終わった。だが一時の危機の後、われわれはもう一つのケインズの時代を生きてきた。それは、一九八〇年代初頭から二〇〇八年までの安定した物価と積極的な政府の時代であった。そのケインズ時代は、世界的金融危機によって終止符を打たれた。

本書は二〇一四年春時点での執筆のため、今日の差し迫った問題が私たちの長期的な目的を狂わせる恐れがある。ケインズの貢献を思い起こすことは有益である。なぜなら、それらは経済成長という望ましい道筋に立ち戻ることには有益だからだ。ケインズは世界経済や、各国間の相互作用に関心を持っていたと本書は主張する。その関心は、ケインズがヴェルサイユ条約に反発した一九一九年から、国際的な通貨管理に関するブレトンウッズ体制の構築に貢献した一九四四年まで、彼の仕事の中心にあった。そして、ケインズは（本書の題辞が示すように）短期に焦点を当てていたが、彼の理論は長期的な経済成長のプロセスについての明確な理解によって補完されていた。相互に関連するこれらのケインズの洞察は、今日の世界経済に生きるわれわれにとって有益である。

本書はケインズの基本的な考えを解説している。読者は、それらを政策問題に応用することができるだろう。読者が本書から得られるものは、ケインズ思考の序論と、世界的な政策問題へのケインズ思考

の応用であって、詳細な理論やその展開ではない。読者が(図4・1で描かれているような)需要と供給の一般的なグラフを扱えるなら、ケインズ経済学の根本を理解するのに十分な基礎知識を持っている。もしより多くの人がケインズ経済学を理解し、また利用するならば、世の中はもっと良くなることを本書は説明する。もちろん、本書で提示したグラフは多くの意味合いを持っており、経済学者達は長年それらを解釈し、論争してきた。

本書がケインズ経済学の入門書に過ぎないことは言うまでもない。国民経済や世界経済の複雑な作用をこのような小著で十分に説明することは不可能だ。英語の入門をマスターしただけの者を文章の書き方の先生として雇う人はいない。それと同じで、本書を読んだだけで経済学の専門家になれるわけではない。しかし、いくつかの簡単なグラフは、経済政策を作成する際の基本的な選択肢に関する読者の理解に大きな変化をもたらすだろう。読者はより情報に通じた国民になるだろう。

本書は、ケインズが最初の貢献をした時に通用していた経済分析についての簡単な説明から始める。それは、具体的には、国際的な経済関係についての十八世紀の見解の紹介であり、本書の説明に終始登場することになる。ここで述べる内容は、ケインズの初期の著作や、大恐慌が始まった時の彼の考え、また第二次大戦中の彼の新機軸についてわれわれが説明する際の背景となる。次いで、国内経済の分析に関してケインズより前の世代において支配的だった理論を概観する。それによって、経済分析の既存の通念から抜け出すことがケインズにとっていかに困難だったかが分かるだろう。

中間の諸章では、よく知られた閉鎖経済についてのケインズ分析を説明する。単純なケインズ・モデルから始めて、通貨システムを含む複雑なモデルへ進む。最も単純なケインズ・モデルでさえ現在の状況に妥当することを説明する。

次いで、国内経済の分析を国際経済の分析に拡張する。そして、第二次大戦後の世界経済の再建や、大恐慌の再来を避けるために、ケインズの考えがいかに重要であったかを説明する。よく知られたケインズ分析について、本書はケインズの洞察を簡単なグラフで定式化している。また、現在の世界経済問題を議論する。そして、現在われわれが直面している政策選択を理解する上で簡単なケインズ・モデルがいかに有益であるかを説明する。

ロバート・M・ソロー氏から有益なコメントや励ましを頂いたことに感謝申し上げます。ハーバード大学退職者向け学習センターの「ケインズ経済学」受講者グループに感謝する。彼らは草稿を「路上試験」で試してくれた。また、MIT出版局のジョン・コヴェル氏が与えてくれた支援と励ましに感謝する。

# 目次

序文 iv

第一章	ケインズ以前の経済学 その一——デイヴィッド・ヒューム……………	I
第二章	ヴェルサイユにおけるケインズ……………	15
第三章	ケインズとマクミラン委員会……………	33
第四章	ケインズ以前の経済学 その二——マーシャル……………	55
第五章	一般理論……………	71
第六章	IS—LM曲線……………	93
第七章	流動性のわな……………	III
第八章	ブレトンウッズとスワン・ダイアグラム……………	129

	第九章	ケインズの時代…危機と反動	155
	第十章	国際間の儉約のパラドックス	167
	訳者解説	「アベノミクスと「ケインズ・モデル」	185
	参考文献		16
	用語集		9
	索引		1